

2016年度ミニム海外キャンプ（オーストラリア）報告

期間 11月20日(出発)～28日(成田到着)

引率監督：1名、庶務：1名、保護者：8名---計10名

参加選手：フルール：男子4名、女子：4名---計8名

サーブル：男子2名、女子：2名---計4名

エペ：男子2名、女子：2名---計4名

総計：引率役員2名、選手16名、保護者8名=26名

(他に、自主的にシドニー大会参加選手・・・1名)

○11月21日(月)：シドニー空港へ5時30分 到着

昨年の空港の部分的ストと違い、スピーディに入国の審査が進んだ結果、ホームステイの見慣れたホストの人達と再会出来て、選手達がホスト家へ、そしてホテルへと無事落ち着いた。

○21日の練習会場 午後5時～9時(モスマンFCにて)

☆選手が全員スポーツ場にて入念なアップ、屋内体育館にて現地の協会スタッフによる

基礎練習、日本側コーチによるレッスンを経て、数多くの試合練習を行った。この試合練習により、個々の選手の長所・欠点等を把握して、今後の指導に用いた。

○22日(火曜日)：午後4時～9時(NSW State FCにて)

学校体育館に於いて、種目別に分かれた練習

- ・選手達もシドニー3日目となり、全体的に落ち着いて来た様子であるが、一人ホームステイ生活に順応できない選手がいる様子で、他にホームステイ希望選手がいれば、交代を考える積もりである。
- ・選手の長所・欠点を指摘する指導レッスンを行うと同時に、積極的な試合形式の練習を行った。

○23日(水曜日)：この日は日本人選手の遠征休養日に当てるという現地協会により、丸一日のオフとなり、この機会を借りて、毎年行っていた最終日のオーストラリア見学を実施。フェリーに乗り、シドニー大橋、シドニー湾やオペラハウスを海から見るという観光を行い、タロンガ動物園での観光等と合わせ、以後心おきなく練習と試合に気持ちを向かわせた。

○24日(金曜日)：大会会場(スティールパーク)での練習

明日よりエペの試合が始まるという事で、緊張が走っている状況であった。ほとんどの約10ヶ国が集う練習で、現地スタッフによるアップが入念に行われ、レッスンを好む選手と試合形式練習を好む選手に別れて、スタート。選手の状態を見ながら、レッスンを交えて、外国人選手に慣れる為の試合を多く経験させた。

○25日（金曜日）：エペの試合が始まる

・エペ個人

U11以下男子個人：第1位—篠田真吾

U11以下女子個人：第1位—高木愛理

U13以下女子個人：第1位—中村真琴、第3位—高木愛理

○26日（土曜日）：試合2日目（フルーレ・サーブル）

U11以下男子フルーレの部：第5位—弓長昇主、第6位—橋本雄偉、

U11以下女子フルーレの部：第1位—飯村彩乃

U13以下男子フルーレの部

第3位—橋本雄偉、第18位—弓長昇主

第27位—岸本錬志、第28位—小原 力、

U13以下女子フルーレの部

第1位：飯村彩乃、第3位：杉本百、玉本愛佳、第17位—水野琉千明

U11以下サーブル男子の部：第1位—大北稜

U11以下サーブル女子の部：第2位—後藤千里、第3位—山崎妃奈乃

U13以下サーブル男子の部：第3位—峰岸佳吾、第6位—大北稜

U13以下サーブル女子の部：第3位—後藤千里、第8位—山崎妃奈乃

◎団体の部

1. U11以下の部 MIX フルーレ：第1位日本チーム

（橋本雄偉・弓長昇主・飯村彩乃）

2. U13以下の部男子の部フルーレ：第6位日本チーム

（橋本雄偉・小原 力・弓長昇主・岸本錬志）

3. U13以下の部女子フルーレ：第1位日本

（玉本愛佳・飯村綾乃・杉本 百・水野琉千明）

4. U13以下の部女子エペ：第1位日本

（中村真琴・高木愛理・水野琉千明・玉本愛佳）

5. U13以下の部男子エペ：第3位日本

（高野留聖・篠田真吾・小原力・）

6. U11以下の部 MIX サーブル：第1位 日本チーム

（大北 稜、後藤千里、山崎妃奈乃）

7. U13以下の部 MIX サーブル：第3位 日本チーム

（峰岸佳吾、大北 稜、後藤千里、山崎妃奈乃）

○23日（水曜日）：文化交流の日 「タロンガ動物園」

・タロンガ動物園には、オーストラリア固有の動物、その他の国の動物というような分け方をしている区域もあり、広大な園内には子供も大人も飽きさせない各種の試みが用意されていた。

・昼食は園内の大きなレストランにて、日本のショッピングセンターのように自由に食べ物や飲み物を選びその代価を支払うシステムであった。

（大きなハンバーガー：1,500円、ジュース類：500円）

短い期間ではあるが、滞在している国の物価と言うものは我々の懐にもろに反映してくる。普通1ドル=97円で両替するのであるが、街の中の店ではいろいろ差があるので注意したい。

- ・タクシーについては、大会を開催している会場付近は田舎というかタクシーが頻繁に走っている訳では無いので、そう容易くタクシーを止められない。また電話で呼ぼうとしても、街中から走ってくるので時間がかかり必要であることも記憶しておきたい。昨年のタクシーの問題点により、今年のタクシーには最初から最後まで旅行代理店の案により、大型タクシーを専属的に契約して、またとてもいい感じの「社長：タイフーさん」と打ち解けて、とてもお世話になった。

今回の遠征の日程としては、強化練習込みの7泊8日と言う事である。ヨーロッパを訪問する場合と比べて、時差が2時間と言う事で問題にはならない。また日本は11月の下旬で秋であるのに対して、シドニーは真反対なので初夏と言える。

ハワイに勝っているような太平洋岸のビーチ、更に若い国で僅か数百年の歴史に於ける欧州からの移民の皆さんの努力により、綺麗な整然とした街並み等が作り上げられており、そう言った街並みを見学するだけでも日本の子供達に取って、大きな文化研修の場であったと思う。

昨年のフルーレとサーブルの選手に加えて、本年はエペ選手達も招待を頂いた。日本の子供達に取って、ホームステイにより滞在できると言う事は、他の遠征では無い事である。初代団長の竹生さんのご努力によるものである事を忘れてはならない。

おわりに

今回の遠征では、現地にてU11才以下の部の団体戦の参加が認められたので、また選手の半数が11才以下であった事と、更に本大会ではMIXチームが許されていたので、我々役員の判断と日本の理事さんとの判断で、差し支えない範囲で本人の希望も募り、「出来るだけ試合数を増やして上げたい」と言う気持ちから、U11の団体戦の追加を申請して、更に多くの入賞を得た。

「ホームステイを止めないで!」と言う多くの手紙が寄せられた事や、急な事であったが、「多く試合に参加出来たことを喜んでくれた」事などから、本年は十分に会議をして、皆さんに喜んで貰える更なる遠征を望んでいる次第です。は十分に会議をして、皆さんに喜んで貰える更なる遠征を望んでいる次第です。

余談：今年もニュージーランドからのプレゼントで、子供達がほっぺたに何やらニュージーランドの葉っぱのマークを貼っていた。これはニュージーランドの保護者がプレゼントしてくれた物であるが、その日本の子供達のほっぺを見る度に、外国人達がにこやかに微笑みを返してくれていた。昨年の子供達は次に来る日本の子供達に「日本のシールを持たせたい」と口々に言っていたので、気を付けていたがそのような物が見つからなかった。

今年もまた日本の選手達の活躍を驚きの目で見ている外国の選手達も、なお一層の相乗効果となってお互いにより良い進歩・発展となるよう期待している。選手達のお陰で、団長の私に入賞のプレゼンターに抜擢され、恥ずかしくも一生の良い思い出になった。

欧州では大きなテロなども報告されているのに比べ、穏やかな人々との交流が続き、これからのなお一層平穏であることを祈念せずにはいられなかった。元気に帰国出来た事は、日本F協会や関係諸氏の皆さんのご努力のお陰であり、また大変お世話になったシドニーのホ

ームステイ先のホストの皆さんに深く御礼申し上げる次第です。

監督：宮崎邦宏
庶務：宮城真政

